

2013.06.04／一橋大学・一橋講堂(東京都千代田区)
一橋大学・経済産業研究所政策フォーラム

資源エネルギー政策の 焦点と課題 〈パネルディスカッション〉

橘川 武郎(きっかわ たけお)
一橋大学大学院商学研究科教授
経済産業研究所ファカルティフェロー
kikkawa09@gmail.com

リアルでポジティブな原発のたたみ方

- ・資源小国の日本では
エネルギーの選択肢を安易に放棄すべきではない
- ・大胆なシフトとバランスの維持でエネルギーの
ベストミックスを追求してきたところに、日本人の知恵がある
- ・その意味では安易に原子力の選択肢を捨てるべきでないが、
バックエンド問題未解決なら原子力は、人類全体にとって、
2050年ごろまでの過渡的なエネルギーにとどまる
- ・「リアルでポジティブな原発のたたみ方」の想定が必要
原発推進派:リアリティの欠如
原発反対派:ポジティブな対案の欠如
- ・石油危機～21世紀前半における
原発の人類への貢献については、正当に評価する

原発からの出口戦略

- ・「北風」でなく「太陽」で原発依存度を低下させる
- ・原発⇒火力発電所(LNGコンバインドないしIGCC)への置換
送電線・変電設備の活用、廃炉ビジネスの展開
原発地元経済への配慮
- ・電力会社の原発からの「名誉ある撤退」
原子力発電事業の電力会社経営からの分離
- ・オンサイト(発電所内)／ワンスルー(直接処分)
を軸としたバックエンド対策→相当額の「保管料」の支給
- ・国際的観点からのもんじゅ、六ヶ所濃縮施設の役割変更
IAEA(国際原子力機関)の参画

将来の電源構成の決め方

■基本的な考え方

・独立変数は、

①再生可能エネルギーの普及

②民生用・運輸用を中心とした省エネの深化

③火力発電の燃料コスト低下・ゼロエミッション化
の進展

■原子力のウエートは引き算で決まる(従属変数)

エネルギー政策に求められる4つの視点

(1) 現実性

- ・ネガティブ・キャンペーン⇒リアルでポジティブな提案
- ・「リアルでポジティブな原発のたたみ方」の想定と
「新安全基準下での原発再稼働」との同時追求

(2) 総合性

- ・原子力か再生エネか⇒本当の焦点は火力のエネ政策
- ・分散型電源/小規模事業者⇔化石燃料調達/大規模事業者

(3) 国際性

- ・韓、中、印、露が原発拡大する下での日本の原子力技術
- ・CO2削減は、国内/原子力から海外/石炭火力へ

(4) 地域性

- ・スマートコミュニティの形成
- ・原発立地地域での「出口戦略」の策定